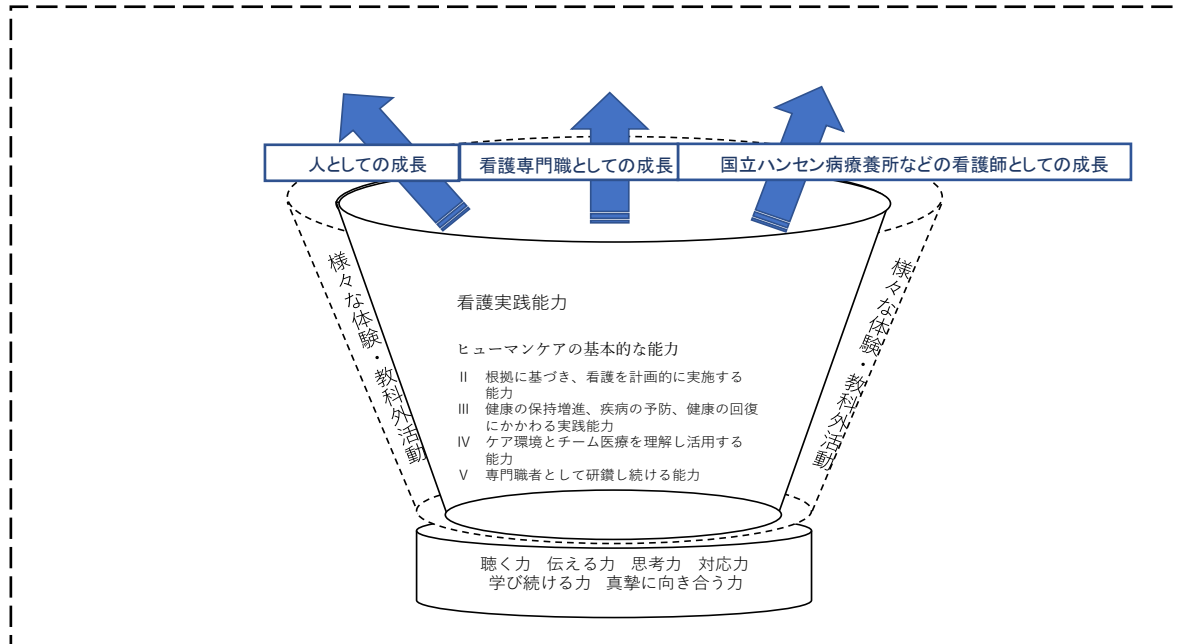


3) カリキュラムポリシー

- (1) 准看護学校教育及び、これまでの社会生活経験で培った聴く力、伝える力、思考力、対応力、学び続ける力、真摯に向き合う力を土台として、看護実践能力を身につけるために人間としての成長、看護専門職に向けての成長、国立ハンセン病療養所及び社会に貢献できる看護師に向けての成長の基盤となる体系的なカリキュラムを編成する。



《看護実践能力概念図の考え方》 図は参考

- ①看護実践能力を次のように定義する。

I 群:ヒューマンケアの基本的な能力

II 群:根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力

III群:健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる実践能力

IV群:ケア環境とチーム医療を理解し活用する能力

V 群:専門職者として研鑽し続ける基本能力

※構成要素および卒業時の到達目標については、看護師等養成所の運営に関する指導・ガイドライン(別表13 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標)参照

- ②看護実践能力は、看護学校入学時までに培った能力を土台として、入学後の学習や体験を通じて獲得していく。概念図ではその成長過程を、上方に向かって広がる円錐であらわしている。

- ③看護実践能力の土台となる力については、看護学校入学までに備わっており、入学後の看護実践能力I～V獲得のために必要な力として、「聴く力」、「伝える力」、「思考力」、「対応力」、「学び続ける力」、「真摯に向き合う力」の6つの力と定義した。

- 看護実践能力を獲得する過程は、人としての成長、看護専門職としての成長、国立ハンセン病療養所及び社会に貢献できる看護師としての成長過程であり、それらはお互いに関連・補完しながら卒業後も成長し続ける。

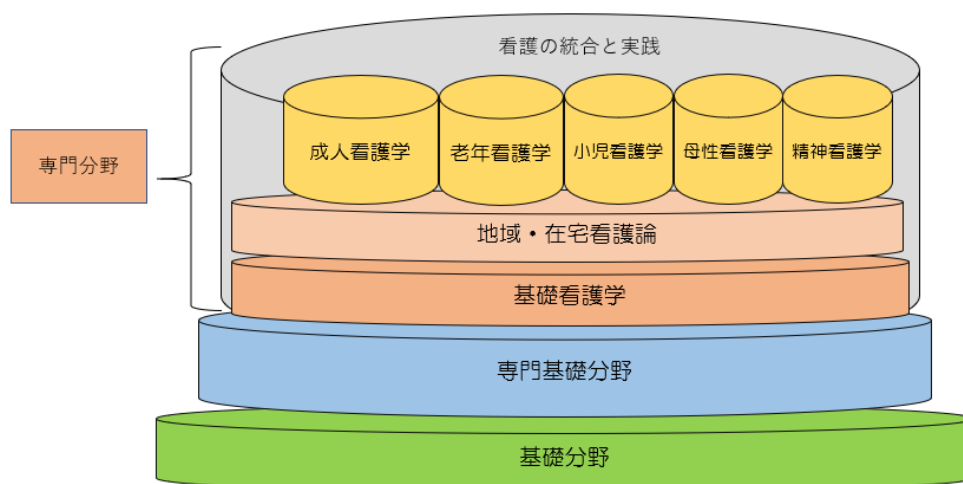
概念図では関連・補完しながら成長する様を3重らせん図で、3つの成長を上に向かう3本の矢で表現している。

④3つの成長については次のように定義した

- ・人としての成長：看護師を目指す者として様々な体験を通して相手を尊重する姿勢や自己中心から他者中心へ意識・行動を変化させる必要性を学ぶとともに、社会人として必要な柔軟性(レジリエンス)を高めること
- ・看護専門職としての成長：看護専門職として必要な知識・技術・態度を学ぶことで、医療専門職の一員として活躍できるプロフェッショナルの基盤をつくる
- ・国立ハンセン病療養所又は看護師としての成長：国立ハンセン病療養所や国民の健康の向上に向けた活動や、医療、災害医療、地域に根ざした医療について学び、国立ハンセン病療養所及び社会に貢献できる看護師としての基盤をつくる

- ⑤看護実践能力の獲得の過程で、クラスやグループ活動、ボランティア活動、個々の生活体験などの様々な体験や教科外活動は、3つの成長を促進する役割を担っている。そのため、概念図では、「様々な体験・教科外活動」として看護実践能力を取り巻く点線上の円錐として表現している。

- (2) 看護師に求められる看護実践能力の獲得に向けたヒューマンケアの基本的な能力、根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力、ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力、専門職者として研鑽し続ける基本的能力を修得するために必要な授業科目を段階的に配置する。



- (3) カリキュラムの構造図としては、基礎分野、専門基礎分野を基盤として看護の専門分野を学ぶ。看護の専門分野の構造については、基礎看護学、地域・在宅看護論を看護の土台として位置づけ、成長発達および看護の特徴を基軸として成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学を平行して学ぶとともに、これからの医療情勢や看護情勢に対応するために必要な内容を看護の統合と実践で学習する。
- 学習の順序性としては、単純から複雑な内容となるように考慮し、基礎分野・専門基礎分野・専門分野を漸進型として学習の段階を追って理解できるように配置する。
- (4) 看護の対象である生活する人々（多様性と個別性の尊重）と生活する場（在宅・地域含む）の理解と必要な援助が提供できる臨床判断能力の修得のためにシミュレーションを活用した演習を強化する。
- (5) 看護専門職として安全で確実な看護基礎技術を身につけ実践力を向上させるために能動的学習（アクティブラーニング）などの教育方法を取り入れる。
- (6) ハンセン病医療は国立病院の役割であることから、看護者に求められる高い倫理観の醸成に向けた授業科目については、関連する授業を段階的に配置するとともに、演習や実習の体験からリフレクション等で学ぶ。
- (7) 医療におけるICTの発展やAI導入に対応していくために、情報や情報手段を主体的に選択し活用する技術と医療専門職としての情報倫理について、演習を通して学ぶ。
- (8) 対象の課題解決に向けた関係者の連携・協働およびチームの一員として互いの職種の特性を知り、かかわる職種や多職種で取り組む支援の在り方について、講義・実習を通して学ぶ。
- (9) 学習目標の達成度について、レポート、筆記試験、技術チェック、実習評価等の様々な方法を取り入れ、知識・技術・態度を総合的に評価する。